

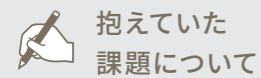
# 従業員主体で考える、柔軟な「働き方改革」

## 株式会社 Park Inn

住所	〒460-0003 名古屋市中区錦1-7-40 第2コアサビル6F		
従業員数	5名	資本金	900万円
業種	不動産業	創業	2011年
HP	https://www.park-i.co.jp		



企業ご紹介 愛知県名古屋市を中心に約80か所のコインパーキング「Park Inn」を運営しています。当社ではオーナー様と一緒に駐車場をつくりあげていきます。土地探しからご挨拶、図面の作成や運営・管理まで駐車場経営のほとんどを当社が担っています。



抱えていた  
課題について

求人広告を出稿しても応募も思うように増えず、エントリーがあったとしても採用につながらないケースが多い。採用活動がスムーズになるような、制度整備を行いたい。

01

### 採用につながるような「働き方」とは

当社は小さな組織ということもあり、会社の雰囲気は良いと考えている。自社PRのポイントと近年求職者が求めている「多様で柔軟な働き方」とのすり合わせが必要であり、求職者から選ばれる企業になるための「働き方改革」を推進していきたいと考えた。

02

### モチベーションを上げるような制度を考えたい

従業員のモチベーションを上げ、求職者から魅力的に感じられるようなインセンティブ・休暇などの制度を取り入れ、採用効率のUP、従業員の定着率を高水準で保ちたい。また、無駄を減らし業務効率化を図ることで職場のストレスを減らしたい。

03

### 働き方を変えることで起きる弊害はないか

新しい働き方を導入することで従業員間のコミュニケーションや連携が損なわれる可能性を視野に入れ、ITツールなどで対策できないか検討したい。また、業務を効率化できるツールも合わせて検討していきたい。

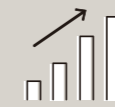


課題の  
ピックアップ

アドバイザーは  
ここを見る！  
～課題の解決に向けて～



求職者はいろいろなところを見ている。新しい制度を導入することももちろん大切ですが、すでに企業が実践をしている「よい部分」をアピール・言語化することも重要です。働き方全体を見直していくことで、人材採用につなげていきましょう。



## 取り組み

01

### 自分たちの会社の「良いところ」をしっかりと認識する

ある程度働き方を従業員の裁量に任せていたため、出勤時間などの個々に応じた柔軟な勤務体制、従業員主体で考える企業風土と高い心理的安全性など、取り組み前から働きやすい環境は整っていた。しかし、制度として明文化されていなかったため、まずは実績としてあった「フレックスタイム制」を制度化し、社内外に周知するためにWebサイトや求人票を刷新した。

02

### 全員で考えるもっと良い「働き方」

当たり前だと思ってきた環境が、「多様で柔軟な働き方」の可能性を秘めていることに気付けたため、自分たち、そしてこれから増えていく仲間に向けた環境づくりのために、それぞれの意見を出し合える「付箋会議」を従業員全員で実施した。そこで最も共感を得た意見を基に「誕生日休暇」制度を導入した。これは従業員全員で考えることが企業に良い影響を及ぼすという「意識の改革」にもつながった。

03

### 制度を円滑にするための「システム利用」

フレックスタイム制を制度として導入したため、従業員全体の働く時間が統一されないことによる連携不足を懸念して、進捗状況を共有できるクラウド目標管理システムの利用を開始した。進捗管理を自動化・効率化することができ、従業員同士の連携がさらに深まった。

アドバイザーからの  
ポイント



従業員全員で考え、良いところを「制度化」して社内外に周知することは採用活動にも大きな影響を与えます。また課題に対してアクションを書き出し優先順位をつけて考えることができる「付箋会議」の活用は、課題解決のルーティーン化につながります。

達成した  
結果



### 自信を持って自分たちをPRできる環境は、採用活動も含む「好循環」のきっかけとなった。

従業員の言葉を傾聴する姿勢は重要だと理解していたが、その中で生まれた働き方を「明文化・制度化」することで、自信を持って会社が行っていることを外部に発信することができるようになった。また従業員の意識改革にもつながったため、社内外に「好循環」が生まれた。

## 企業の声



総務担当 本間 美咲 様

従業員同士のコミュニケーション、互いのフォローなどは手厚く行っていました。規模が大きいわけではないので制度整備などは後回しでも良いと考えてしまっていました。また、従業員全員で会社の課題に取り組むことで組織としての強さが増したと考えています。今回の活動を通じて会社が「新たなスタートライン」に立ったと感じています。